

小学校教員養成校におけるピアノ初学者のための効果的な教材作成

— 難度が高いと学習者が感じる楽曲の分析およびその考察 —

Creation of effective textbook for piano beginners in elementary teacher training schools

— Analysis and consideration of songs that learners perceive as difficulty —

松井裕樹¹、松浦光男²

MATSUI Hiroki¹, MATSUURA Mitsuo¹

[キーワード Keyword] 小学校、教員養成、ピアノ、初学者、教材

[所属 Institution] ¹岐阜大学教育学部音楽教育講座

[要 旨 Abstract] 本研究は、ピアノ初学者を対象とした実技指導における実践の検証と考察である。実践には筆者の作成した初学者用の練習曲集を使用した。この練習曲集は、基本的な楽典の知識をまとめたものと、その学習内容と関連性がある練習曲集を整理したもので、2022年度の日本学校音楽教育実践学会が主催する全国大会において、その有効性について口頭発表を行った。本年度も引き続きこの練習曲集の有効性を検証する。さらに、難度が高いと学習者が感じる楽曲についてアンケート結果をもとに分析を行い考察する。アンケート及び考察から、初学者が苦手意識を感じる曲にはいくつかの共通事項があることが認められた。今後も引き続き実践と研究を通し知見を蓄積することで、効果的なテキストの開発や授業の在り方について研究を行う。

1. 研究の概要

1.1. 研究の目的と意義

本研究は、本学の教育学部2年生を対象にした授業「音楽I」の履修者の中で、ピアノ実技レッスンの受講を希望するピアノ初学者を対象とした実技指導における実践の検証と考察である。この実技指導は、小学校の教員となって音楽の授業をする際に必要となる弾き歌い実技の基本的な技能を養うことを目的とするものである。学生は学研プラスより出版されている『小学校教諭のための 歌唱共通教材ピアノ伴奏集』をテキストとして使用する。また、このテキストと併せて、筆者が作成したピアノ初学者用の練習曲集（以下、「初学者用テキスト」とする）を用いて、ピアノ実技に必要な基本的な技術や楽典の知識を学ぶ。

この初学者用テキストの内容については、日本学校音楽教育実践学会が主催する2022年の全国大会において、その有効性と課題について松井らが口頭発表を行った¹。本研究では、昨年度に引き続きこの初学者用テキストの有効性を検証するとともに、学生にとって難度が高いと感じる楽曲に焦点を当て、その特徴や傾向を分析する。初学者が難しいと感じる技能について分析し知見を蓄積することで、今後の効果的なテキスト作成や指導につなげたい。

ところで、ピアノ初学者に対する指導については多くの研究者によってこれまでに多角的なアプローチによる様々な研究がされてきた²。一方で室町は、音楽の授業は弾き歌いの技能のみで成立しているものではないとし、弾き歌いの修得に時間をかけすぎること、音楽の授業づくりのためのその他の知識や技能を身につけることが困難な状況になっていないかを、批判的視点に立って検討していく必要があると述べている³。さらに弾き歌い教育については、今日の教育事情を加味して問い直さなければならない時節に来ていると指

¹ 2022年8月20日、8月21日にオンラインで開催された。この大会で発表された研究の要旨は、同学会が発行する『学校音楽教育実践論集 第6号』（2023）に集録されている。

² 辻浩美・鹿戸一範ほか（2017）「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と傾向—全国の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基づいて—」『研究紀要』小池学園、第15号、p.29

³ 室町さやか（2023）「V 教員養成と教師教育 3 保育者養成における実技指導 はじめに」『学校音楽教育実践論集』日本学校音楽教育実践学会、第6号、p.95

摘している⁴。このように我々を取り巻く情勢は常に変化し続けており、音楽の授業については多角的な議論が重ねられ、授業の在り方や方法論に多くの選択肢が増えている現代においては、これまでの継承的なピアノ初学者に対する教育はその根本的な意義を考え直す必要があるといえよう。

しかし他方で、ロナルド・カヴァイエは、音楽芸術に対する理解を深めるためには、数々の困難に直面することも重要であると述べている⁵。ピアノ初学者にとっては、ピアノ演奏や弾き歌いの学習は決して容易なものではなく時間を要するものであろう。しかし、音楽の楽しみや良さを主体的に感じ取れるツールとして、ピアノを弾く技術は非常に有効な手段であるともいえる。

それゆえに、ピアノ初学者の学習においては、音楽の授業づくりに必要な多くの知識や技能の修得とともに、芸術の真の良さに迫ることに有効な手段となり得るピアノ技能を学べるよう、その両立が望ましいといえる。そのためには、指導実践やその研究をもとにピアノ初学者に対する学習法についての見識を深め、指導法の更新および初学者用テキストの開発を進めることが重要であると筆者は考える。

1.2. 作成した初学者用テキストについて

初学者用テキストの内容については、以下表の通りである。

タイトル	学習の目的	備考
楽譜を読もう①	<ul style="list-style-type: none"> 音部記号の理解 音名の理解 	音名と鍵盤上での位置の学習。練習問題も併せて記載した。
UP AND DOWN THE KEYBOARD	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜に書かれた音符と鍵盤上での位置を確認しながら、片手ずつ演奏することができる 	ギロックの作品。旋律のみで構成され、両手を用いて旋律を受け渡す。付された英語の歌詞が音価と対応しており、初心者が弾く曲として適している。
Exercise 1	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜に書かれた音符と鍵盤上での位置を確認しながら、両手を同時に使用して演奏することができる 	『大学ピアノ教本』 ⁶ より練習曲No.2を引用したもの。バイエルの練習曲より第8番が編曲されたものであるが、左手の和音をベース音のみに編曲した。
Exercise 2	<ul style="list-style-type: none"> 左手に2種類の和音を用いた楽曲を演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.2を引用したもの。
楽譜を読もう②	<ul style="list-style-type: none"> 音価の理解 拍子と拍子記号の理解 	音価に関する学習。休符の長さについても学習を行えるようにした。
Exercise 3	<ul style="list-style-type: none"> 2分音符と4分音符の相対的な関係を理解し、両手で演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.5を引用したもの。
Exercise 4	<ul style="list-style-type: none"> 4分音符と4分休符の関係を理解し演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.8を引用したもの。
Exercise 5	<ul style="list-style-type: none"> 4分音符と8分音符の相対的な関係を理解し演奏できる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.23を引用したもの。

⁴ 同上書、p.95

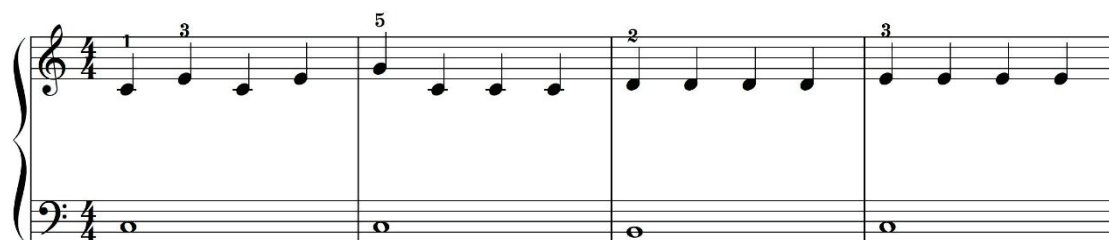
⁵ R.カヴァイエ・西山志風 (1988) 『日本人の音楽教育』新潮社、pp.250-251

⁶ 大学音楽教育研究グループ (2016) 『教職課程のための 大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』株式会社教育芸術社。以下、『大学ピアノ教本』とする。

タイトル	学習の目的	備考
楽譜を読もう③	<ul style="list-style-type: none"> 付点音符及び付点休符の理解 変化記号と調号の理解 	これまでに学習した内容の発展として考えられるようにした。
Exercise 6	<ul style="list-style-type: none"> 付点2分音符と4分音符の相対的な関係と、3拍子を理解して演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.9を引用したもの。
Exercise 7	<ul style="list-style-type: none"> 付点4分音符と4分音符の相対的な関係を理解し演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.50を引用したもの。左手のアルベルティ・バスを4分音符に編曲し、左手の負担が軽くなるよう工夫した。
Exercise 8	<ul style="list-style-type: none"> 付点4分音符と8分音符との相対的な関係を理解し演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.50を引用したもの。
Exercise 9	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した知識・技能を総合的に用いて演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.17を引用したもの。
Exercise 10	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した知識・技能を総合的に用いて演奏することができる 	『大学ピアノ教本』より練習曲No.20を引用したもの。

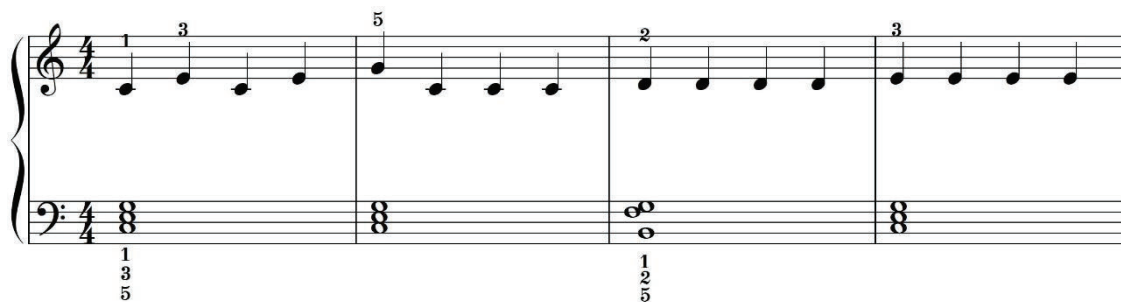
この初学者用テキストの大きな特徴は次の2点である。第一に、右手に関してはすべての曲においていわゆる「静かな手」のみで演奏できる曲を選曲した点である。これは「5指ポジション」とも呼ばれ、5本の指を連続して隣り合う鍵盤に順に置いて、その位置で手のポジションを固定するという考え方である。このポジションで弾ける曲を選曲したことで、11曲の練習曲を通して基本的な楽典の知識とピアノの基礎的な技能の関連に特に集中できるよう配慮した。ただし、左手に関しては手を広げて用いる曲も選曲した。これは、初学者の多くが手や指に不要な力が入る傾向があり、力が入った指はまっすぐに伸びてしまうため、隣り合う鍵盤に指が固定されにくいためである。つまり、両手とも「静かな手」で演奏できる作品は一見易しい印象を受けるが、初学者にとっては必ずしもそうでないと筆者は考えている。また、教員養成課程で用いられる伴奏用教材には、左手にコードでの伴奏やアルベルティ・バスなどの音型が用いられている曲が多い傾向にあるように思われるため、初期の段階から手を広げるといった感覚に慣れることができるよう配慮した。

第二に、授業外で行う個人練習でつまづきが少ないよう、同じような音型が使用された曲を選曲し配列した。漸進的なステップ設定にすることによって、学習者にとって精神的にも肉体的にも負担の少ない練習曲集になるよう配慮した。譜例1・2は、初学者用テキストのExercise 1とExercise 2の冒頭部分である。



譜例 1 初学者用テキスト Exercise 1⁷ 冒頭部

⁷ 大学音楽教育研究グループ（2016）前掲書、p.5より引用した楽曲の左手を筆者が編曲したもの。右手の運指は筆者による。



譜例 2 初学者用テキストExercise 2⁸ 冒頭部

この2曲は右手の旋律が同一である。また、Exercise 3・4・5は、左手の音型がほぼ同一となっている（譜例3～5）。



譜例 3 初学者用テキストExercise 3⁹ 冒頭部



譜例 4 初学者用テキストExercise 4¹⁰ 冒頭部



譜例 5 初学者用テキストExercise 5¹¹ 冒頭部

また、Exercise 7からExercise 10はアルベルティ・バスを使用した楽曲を選曲した。この初学者用テキスト全体を通して、基礎的な技能の習得のみにとどまらず典型的な左手の伴奏の形にも学習者が早くから慣れることができるよう配慮した。

⁸ 大学音楽教育研究グループ（2016）前掲書、p.5より引用した楽曲。右手の運指は筆者による。

⁹ 同上書、p.8より引用した楽曲。

¹⁰ 同上書、p.11より引用した楽曲。右手の運指の一部は筆者による。

¹¹ 同上書、p.26より引用した楽曲。

1.3. 対象者と実践期間について

本実践の対象者は、本学教育学部に在籍する2年生で、ピアノに関する実技指導を受講することを希望し、ピアノをこれまでに全く学んだことのない13名の学生である。この内数名は、音楽系の部活動等で他の楽器を経験している者もあり、そういった学生は譜読み等の楽典に関してある程度の知識があるようであった。また、親御さんからピアノの基本的な技術を学んでいる学生もいた。

学生は、最初にこの初学者用テキストで基本的な楽典の知識を学び、それに対応したExerciseを練習しながらピアノ実技の学習を進めた。また、初学者用テキストを修了した者から順に小学校歌唱共通教材の伴奏の学習に入っていった。なお、この13名の内10名は、初学者用テキストに掲載した楽曲全てを修了することができたが、残り3名については授業期間内に全てのExerciseを修了することができず、小学校歌唱共通教材の学習へと移った。

実践期間は2023年4月14日から2023年7月28日までの15回の授業で、最後の授業は実技テストとした。また、第14回目の授業では授業終了時にアンケートを行い、初学者用テキストの有効性に関する学生らの意識調査を行った。

2. アンケートについて

2.1. アンケート結果

第14回目に行ったアンケートの内容と結果について以下にまとめる¹²。

1. 音符は読めるようになりましたか。

1	読めるようになった	6人
2	ある程度読めるようになった	7人
3	あまり読めない	0人
4	読めない	0人
5	無回答	0人

2. 音の長さがわかるようになりましたか。

1	わかるようになった	9人
2	ある程度わかるようになった	4人
3	あまりわからない	0人
4	わからない	0人
5	無回答	0人

3. 付点のリズムについて、理解できるようになりましたか。

1	理解できるようになった	7人
2	ある程度理解できるようになった	5人
3	あまり理解できない	1人
4	理解できない	0人
5	無回答	0人

4. # や ♭ の仕組みや鍵盤の押さえる位置が理解できるようになりましたか。

1	理解できるようになった	8人
2	ある程度理解できるようになった	5人
3	あまり理解できない	0人
4	理解できない	0人
5	無回答	0人

5. 楽譜の読み方に関する知識は、ピアノ実技の練習や演奏に役に立ちましたか。

1	役立った	12人
2	ある程度役立った	1人
3	あまり役立たなかった	0人
4	役立たなかった	0人
5	無回答	0人

6. 授業以外で、ピアノ実技の練習をどれぐらい行えましたか。

1	たくさん練習できた	1人
2	ある程度練習できた	9人
3	あまり練習しなかった	3人
4	ほとんど練習していない	0人
5	無回答	0人

¹² 本研究におけるアンケート結果等のデータについては、関係者の承諾を得て公表している

7.6の項目で、3または4を選択した人は、その理由を下記から選んでください（複数選択可）。

1	練習曲が難しかった	1人
2	楽譜が読めないので練習できなかった	0人
3	練習曲がつまらない	0人
4	練習曲が簡単で	0人
5	その他	2人
6	無回答	0人

「その他」の回答

- ・時間が確保できなかった
- ・バイトに追われていた

9.練習曲集について、必要性を感じましたか。

1	あった方が良い	12人
2	あった方が良いかもしれない	0人
3	なくても問題はない	0人
4	必要ない	1人
5	無回答	0人

10.練習曲集について、意見や感想などを聞かせてください。

学生A：Lesson7、8とLesson9、10の難易度が7、8の方が高い。

学生B：9、10が簡単であったので、7、8を最終曲にしなかったのは、どのような意味があるのか。

学生C：難しかったがピアノの上達に役立った。

学生D：難しかったけど、すごくいい練習になりました。

学生E：初心者にとって1人でも練習が進められるような良い難易度になっていると思った。

学生F：何を練習して欲しいのか、どんな技術を身に付けて欲しいのかが分かりやすく、練習しやすかった。

学生G：少しずつ音数が増えたり、付点が付いたりしましたが、段階を踏むことでできるようになりました。

学生H：左手の指を動かす練習になった。

学生I：指の動きや、基本的なリズムを理解できて、教科書の曲を弾く前の導入としては完璧だと思いました。

学生J：練習曲集があったおかげで少しずつ指を動かすのに慣れていき、成長を感じることができて楽しかった。

2.2. アンケート結果の考察

この初学者用テキストを用いた学習によって、楽典の知識が学生らにある程度定着したことが上述のアンケートの設問1から設問4の結果から示されたといえる。しかし、アンケートの設問3にある、付点のリズムの理解に関する項目に1名のみ「あまり理解できない」を選択しており、今後の指導方法及びテキストの内容について検討する必要があるといえる。付点のリズムについては初学者用テキストのExercise 7とExercise 8で取り上げたが、この2曲のExerciseについては、詳細は後述するが、本年度は苦手意識を持つ学生が多く、学習につまづきが見られる者が多い印象であった。付点のリズムについて理解度が深まらなかったのは、取り扱った練習曲の難易度と関係があると筆者は考えている。

また、学習した楽典の知識が初学者らのピアノ学習に生かされていると本人たちが実感していることが上述のアンケートの設問5の結果に示されているといえる。これは昨年度実施したアンケートと同様の結果であり、楽典の基本的な理解がピアノ初学者にとって有効であることが示されているといえよう。

8.練習曲集があることによって、ピアノ実技が上達したと思いますか。

1	上達したと思う	7人
2	ある程度上達した	6人
3	あまり上達しなかった	0人
4	上達しなかった	0人
5	無回答	0人

設問8のアンケート結果からは、初学者用テキストが学生らの達成感につながっていることがうかがわれ、このテキストの有効性が示されたといえる。ただし、本年度は設問9において、学生Bは初学者用テキストの必要性を感じないと回答している。なおこの学生Bは、設問10の自由記述において「9、10が簡単であったので、7、8を最終曲にしなかったのは、どのような意味があるのか」と回答している。また、設問8においては、練習曲集によって自身のピアノ技能が「ある程度上達したと思う」と回答している。これらのことからこの学生は、初学者用テキストがピアノ実技の上達に影響していると感じているが、このテキストがなくてもピアノが弾けるようになって考えているのだと推察される。また、そのように感じる理由として、筆者の設定した曲順や選曲に対して疑問を感じていることが一因となっているのではないかと推察している。このことは、設問10の自由記述における学生Fの記述「何を練習して欲しいのか、どんな技術を身に付けて欲しいのかが分かりやすく」にも示されているといえる。つまり、見通しをもって学習を進められることが学習者らの理解度や満足度に深く関係していると思われ、学生Bは曲順や選曲に疑問を持ちながら学習を進めたため、このテキストの必要性を感じられなかったものといえる。従って、この学生には曲順や選曲の意図などを説明しながら指導を続けることが有効な手立てとなると考える。

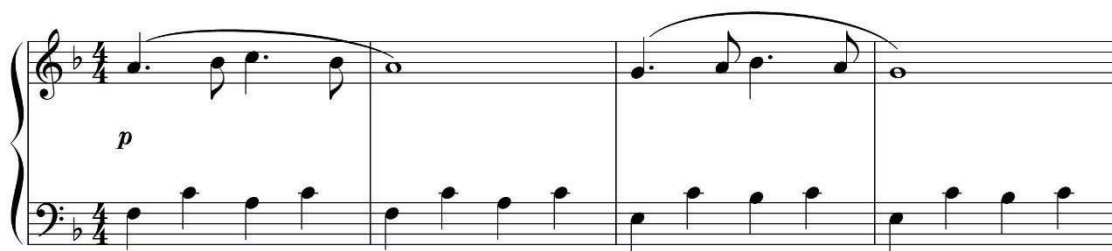
また、学生Dは設問6と設問7において、このテキストの内容が難しかったためあまり練習できなかったと回答している。しかし、設問10の自由記述では「難しかったけど、すごくいい練習になりました」と記述していることから、初学者用テキストに選曲した曲の難易度は、やや難しいと感じる学生もいたが不適切ではなかったと考えることができる。しかし、この授業では13名の学生の内3名は初学者用テキストの全曲を修了することができていない。上記のアンケート結果からは、どの学生もある程度の技術の習得が実感されているものの、選曲については再度検討の余地があるものとする。

また、設問10における学生E「初心者にとって1人でも練習が進められるような良い難易度」、学生G「段階を踏むことでできるようになりました」、学生H「左手の指を動かす練習になった」、学生J「成長を感じることができて楽しかった」との記述は、このテキストの狙いに合致するものといえ、このことからこの初学者用テキストの有効性が示されたと考える。

3. 学生を感じる難度の高い楽曲についての考察

先述のアンケートと同じ用紙に、学生が初学者用テキストの中で特に難しかったと感じる楽曲とその理由を記述させた。なお、記述できる楽曲数に制限は設けず、複数曲記述してよい旨口頭で伝えた。

その結果、最も多くの学生が難しかったと感じる楽曲はExercise 7で、13名中12名の学生がこの曲を特に難しく感じる曲の一つとして記述していた。譜例6はその冒頭部分である。



譜例 6 初学者用テキスト Exercise 7¹³ 冒頭部

また、この曲を難しいと感じる理由について、学生が記述した内容は以下の通りである。

学生A：左手でリズムが取れないから。

学生B：Exercise6から急激にレベルが上がり、リズムをとるのが難しかった。

学生C：難しかった。

¹³ 大学音楽教育研究グループ（2016）前掲書、p.53より引用した楽曲の左手を筆者が編曲したもの。

学生D：右手と左手の動きがバラバラで大変だから。

学生E：右手と左手をバラバラに動かすのが難しかった。

学生F：Exercise6までは右手と左手が同時押しだったのが、バラバラになり、上手く指を動かせなかったから。

学生G：リズムが右と左でバラバラだった。

学生H：右手と左手でテンポが違う。

学生J：右手と左手のリズムが違うので難しかった。

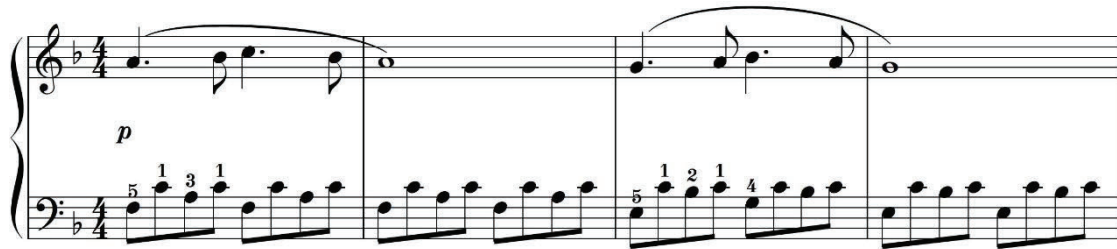
学生K：右手のリズムと左手のリズムが違うから。

学生L：左手と右手でリズムが異なるので、頭の中が混乱してしまった。また、フラットがあるので意識することが多かった。

学生M：フラットが付き、右手と左手で指を動かすタイミングが異なっていたから。

これらの記述からは、付点のリズムを演奏する際右手と左手が違う動きをすることに対して初学者が難しいと感じていることが読み取れる。また、学生Lの「フラットがあるので意識することが多かった」、学生Mの「フラットが付き」という記述からは、黒鍵を弾くことに学生が苦手意識を持ったことがうかがえる。

この曲の次に多くの学生が難しい課題として挙げた曲は、Exercise 8であった（譜例7）。



譜例 7 初学者用テキスト Exercise 8¹⁴ 冒頭部

この曲はExercise 7で取り上げた曲と同じであるが、左手の音数が増える。このことに対して苦手意識を持った学生が多いようで、下記のような記述が見られた。

学生B：Exercise7が早いテンポでピアノを弾く必要性が出てきたことで、混乱。

学生C：難しかった。

学生D；Exercise7の強化版でもっと大変だから。

学生E：左手がいそがしかった。

学生F：頭で考えて弾くことが困難だから。

学生I：左手が沢山動くので難しかった。

学生J：左手の指をたくさん動かさないといけないから。

このExercise 8で見られる学生の記述について、右手のメロディーはExercise 7と同一であるにも関わらずリズムに苦手意識を持っている学生が一人もいないことは注目すべき点であろう。このことから、付点のリズムを理解するには、拍が分割された伴奏がある方が初学者にとって理解しやすいといえる。しかしそのためには左手をたくさん動かさなければならず、そのことに対して初学者は苦手意識を持つこととなった。これらの点を踏まえると、付点のリズムを伴った楽曲の学習においては、学習時間を十分に確保し丁寧に学習することが望ましいといえる。

次に、3名の学生がExercise 2を難しい曲として挙げている。この曲は、譜例2として先に挙げた曲であるが、その難しい点について学生らは以下の通り記述している。

¹⁴ 大学音楽教育研究グループ (2016) 前掲書、p.53より引用した楽曲。

学生D：同時に3音弾くのが大変だから。

学生L：左手で3つの音を同時に弾くのが難しかった。

学生M：3ヶ所を同時に左手で押さえる必要があったから。

これらの記述からは、和音の演奏が難しいと感じる初学者がいるということがわかり、興味深い。初学者の学習にはコードでの伴奏が簡易で有効であるとする研究者は少なくない。林は簡易伴奏の基本的な方法としてコードによる伴奏を挙げ、練習時間の短縮につながると述べている¹⁵。筆者もそう考える一人であり、初学者にとって難度の低い楽曲という設定で、この初学者用テキストの中で早い段階での選曲とした。しかし、学生らの手の形を見ていると、和音を奏する際に打鍵しない指を必要以上に鍵盤から離そうとする傾向が見られ、そういった学生は手全体に過度の力が入っており、次の和音にスムーズに移れずに演奏に苦勞していた。

これは、鍵盤に少し触れる程度で音が鳴ってしまうような、鍵盤の軽い電子楽器で練習している悪影響なのではないだろうかと筆者は推測している。本年度の受講学生の中には、自宅に練習する楽器がなく、鍵盤ハーモニカを用いて練習しているという学生もいた。本研究ではこのことについてその後調査をしていないため原因について断定することは避けるが、いずれにせよ、初学者にとってはコード伴奏が必ずしも簡易なものであるとは限らないということがわかる興味深い回答であった。

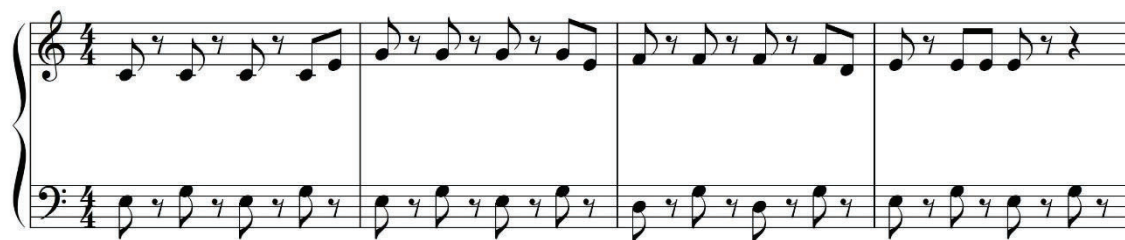
この他に、2名の学生はExercise 5を難しい曲として挙げていた（譜例5）。学生の記述は以下の通りである。

学生F：8分音符のリズムを中々つかめなかったから。

学生L：8分音符が初出なので、タイミングが取りづらく、その後がつまってしまった。

この2名の学生は、この曲で苦勞した理由を8分音符のリズムが原因と分析しているが、筆者は別の部分に原因があると考えている。それは、この曲の右手と左手の運動の違いによるもので、右手の動きに左手の動きが連動してしまうことだと考えている。

この曲は、ほとんどの小節において右手が同音を打鍵する。この際、初学者は手全体を上下に運動させ同音を打鍵する傾向がある。他方、左手は上下に運動させる必要はないのだが右手の運動につられてしまい、譜例8のような演奏がしばしば見受けられた。



譜例 8 Exercise 5において、学生の多くに見られた演奏

手全体を上下に運動させ演奏させた場合、1拍に入る音の数が左右の手で一致している場合は演奏がストップしてしまうようなことはあまりないが、譜例8の第1小節から第3小節目における第4拍目のような部分では、左手が次の小節の第1拍目の音を右手の4拍目の裏と同時に打鍵してしまう傾向にある。その結果この曲で苦勞する学生が多かった。実はExercise 4でも同様の事象が見られたが、Exercise 4では各拍の音数が左右の手で一致しているため演奏がストップする学生は少なく、誤った演奏表現になっているにもかかわらず弾けていると認識している学生が大半であった。アンケートでもExercise 4を難しく感じる曲として挙げた学生は一人もいない。

¹⁵ 林京平(2023)「ピアノ弾き歌いにおける効果的な指導法について—初学者の学修効率化に向けて—」『玉川大学芸術学部研究紀要』玉川大学、第14号、p.36

さらに、このExercise 5における学生をつまずきと、最も多くの学生が難しいと感じたExercise 7には関連性があるといえる。それは、左右の手が異なった動きをする必要がある曲であるということである。このことから左右の手が違う動きをするということに対して、多くの初学者が苦手意識を持つのではないかと筆者は考える。

また、演奏がストップしてしまう回数が多い曲が適度にテキストに含まれていることも、初学者には重要であるといえる。つまり、Exercise 5がなければ、Exercise 4での技術が正しく定着していないことに初学者らが気づくことができないうまま学習が進んでしまう。第14回目に行ったアンケートでは、Exercise 5を難曲として挙げる学生は少なかったが、授業では多くの学生が苦労していた。これは、初学者用テキストの初めの方の曲の学習記憶が薄れていることやExercise 7での難しさのインパクトが強かったことなどが原因であると筆者は考えている。

4. まとめ

先述のアンケートの考察・及び学生が難度を感じる楽曲についての分析を通して次の示唆を得ることができた。

第一に、基本的な楽典の知識が学生に身に付いていることや初学者用テキストがあることによってピアノ実技が上達したと学生が感じていることがアンケートから明らかになったことにより、筆者が作成した初学者用テキストについて一定の有効性が認められたということである。この要因として、全曲を5指ポジションで演奏できる曲に限定したことにより学習するポイントが明確化された点に効果があったと考察する。また、類似する曲を選曲し漸進的なステップアップが図れるように配慮したことも、学習者の技術を段階的に向上させることにつながった。また、学生が学習に苦労する曲も含まれていることも技能習得の度合いを測る尺度となり、その意味で重要であった。さらに、楽典の知識がピアノ学習に有効であるということもアンケートから明らかである。

第二に、初学者が苦手意識を持つ楽曲の特徴として次の3つの事項が明らかになった。それは、①左右の手が違う運動が求められる曲であること、②音の数が多曲であること、③和音のある曲であるということである。そしてこの3つの事項は、手に過度な力が入るとどの事項も上手く弾けないという点が共通しているといえる。①では、左右の手に過度な力が入ることで、片方の手の運動にもう片方の手が連動してしまう。また②では、力んだ手では音の数が多曲を弾く際にはテンポが遅くなってしまい上手く弾けない。また③では、和音から次の和音へ移る際、力んだ手ではスムーズに弾けない。従って、手に過度な力が入らずに弾けるようになる練習曲があると、初学者の学習には効果的であるといえる。また、個人練習に用いる楽器も、初学者の学習効果を左右する要因になっていると考える。

ピアノ初学者に対する指導については、先にも述べたが、教材を始め授業の方法等多くの研究者が研究を重ねている。今後も、先行研究等を調査しながら実践研究を通して知見を蓄積し、効果的な初学者用テキストの作成を行い授業に生かしていきたい。

<参考文献>

大学音楽教育研究グループ (2016) 『教職課程のための 大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』株式会社教育芸術社

辻浩美・鹿戸一範ほか (2017) 「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と傾向—全国の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基づいて—」『研究紀要』小池学園、第15号、pp.29-39

林京平 (2023) 「ピアノ弾き歌いにおける効果的な指導法について—初学者の学修効率化に向けて—」『玉川大学芸術学部研究紀要』玉川大学、第14号、pp.31-38

室町さやか (2023) 「V 教員養成と教師教育 3 保育者養成における実技指導 はじめに」『学校音楽教育実践論集』日本学校音楽教育実践学会、第6号、p.95

R.カヴァイエ・西山志風 (1988) 『日本人の音楽教育』新潮社